

週刊 教育資料

2013年2月18日号

No.1241

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION

<http://www.kyoiku-press.co.jp>

>>> 好評連載

- **マイオピニオン【どうする体罰問題】** 貝ノ瀬滋／東京都三鷹市教育委員会教育委員長
- **教育問題法律相談【体罰の定義とは?】** 三坂彰彦／弁護士
- **教育の紛争【いじめ問題を考える】** 梅澤秀監／東京都立雪谷高等学校(定時制)主幹教諭



▼資料【審議の経過(概要)】

◎中教審・高等学校教育部会
〔高校教育の質保証に向けた学習状況の評価等に関する考え方〕

▼自著を語る【なぜ、勉強しても出世できないのか?】

◎佐藤留美／ジャーナリスト

▼通信・議会質疑【武道必修化】

▼潮流【継続的な仕組みづくりと連携】

◎福井昂／特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構理事・事務局長①

福井 昂

ふくい・こう◎昭和 15(1940)年生まれ。民間の万引防止器関連の会社に勤務。「機械だけでは万引はなくなる」との思いから平成 15年から東京都の万引防止協会の活動に関わる。平成 17年の全国万引犯罪防止機構の設立時から理事・事務局長に。

潮流

潮流◆題字 奥野誠亮

特定非営利活動法人
全国万引犯罪防止機構理事・事務局長

福井 昂氏に聞く ①

教育とコミュニケーションが重要

——犯罪をなくすのは難しい課題ですね。
震災対策でも、困っている人にお金を渡せば済むという話ではなくて、やはり生きがいや、やりがいを感じられるような生活を取り戻していくことが大切です。犯罪一般の問題を考えても、対策にお金を掛けるのか、それとも犯罪が起りにくいような人間関係や社会の在り方を指すのか—の分岐点にあるのが現在の状況ではないでしょうか。

継続的な仕組みづくりと連携

高齢者や保護者の孤立化が
問題を複雑にしている。

防犯対策の強化とともに

学校・家庭・地域の連携が課題だ。

万引の問題は、規律や規範意識の向上という面から教育の課題として考える必要がありますし、もう一つ、親子のコミュニケーションという面からは、トラブルがあっても親子で乗り越えていけるような、厳しさ・優しさや愛情ある対応の在り方が問われているともいえます。また、そうした親子を支える周りの大人たちの存在も大切でしょう。

——保護者はどう対応していけばよいのでしょうか。
保護者の集まりで「子どもに絶対、万引

をさせない」ための保護者の役割について話すことがあります。子どもは一度でも万引をしてしまうと、再び万引をしてしまう可能性が高くなります。どんな誘惑にも負けずに乗り越えていける強い心を育てるのは大人の責任ではないでしょうか。

もし、子どもが万引をしてしまったら、①「二度としない」と決意させる②きちんと「抱き止める」「叱る」③子どもと一緒に万引をした店に謝罪に行く④万引をした理由・原因を探り、子どもと向き合う—ことがポイントです。

——親の対応で問題に感じるのはどういう点ですか。

親の対応で困るのは▽自分の子どもが罪を犯したことを真剣に受け止めない▽子どもの指導や店への謝罪をなおざりにして被害品を買い取ることで済ませようとす▽万引した原因を、「他の子どもに誘われたため」などと他人のせいにする▽子どもが万引を繰り返すと見捨ててしまう▽世間体や学校に知られることばかり気にしている▽「なぜ自分の子だけ捕まるのか」と通報した店側にクレームを付ける—ことです。

——では、親も含めてどうしていけばよいのでしょうか。

やはり、家庭での教育をもう一度、振り返ってもらうことが大切でしょう。具体的



には、▽日頃から家庭での触れ合いを大切にしているか▽良いこと、悪いことの区別をしつかり教えているか▽子どもが間違ったことをしたとき、きちんと叱っているか▽ねだる子どもに我慢をさせているか▽保護者自身が子どもの手本になるような生き方をしてしているか▽人を思いやる気持ち、人の痛みを感じる心を育てているか▽子どもが話すことを子どもの目を見てきちんと聞いているか▽「ありがとう」「だいじょうぶ」「ほっとけない」「すごいね」など、愛あふれる言葉を使っているか―などをチェックし

てはどうでしょうか。

親の孤立化を防ぎ、地域と連携

――親の孤立化を防ぐために、どういうことが考えられますか。

まず、1人で悩まず、人生の先輩方や地域の児童相談センター、教育相談センター、警察の少年課などに相談することです。子を産んだから親になるわけではありません。このような子育ての経験を重ねながら親になっていくのです。

子どもの健全育成という点では、地域で

できる取り組みもあります。普段から近所の子どもと明るいあいさつを交わし、温かく見守り、間違ったことをしたら厳しく叱ることです。大人同士が、あいさつ・声掛けをすることも大切です。他には、子ども自身が万引について考えるような取り組み（職場見学、職場体験学習、ポスター制作や意見発表会、作文、ディベート大会など）を学校、PTA、健全育成団体、町内会などが連携協力して実施するのも効果的です。

――他に対策として大切なことは何でしょうか。

家庭教育や学校での道徳教育も重要ですが、同時に、万引されにくい店の環境づくりも大切です。平成24年の青少年調査では、中・高生の約2割が、「万引しやすい店を知っている」との解答で、店の対策が十分であることがうかがえます。昔なら駄菓子屋さんなどで万引被害が多かったのですが、今は、スーパー・コンビニでの被害が多いですね。ですから、心の教育と店の万引対策の両面が必要です。

――店の防犯対策について保護者はどう見えますか。

実は、商品にタグを付けて出入りをチェックする万引防止機の導入をためらう店もあります。費用が掛かることや、対面販売を大事にしたいなどの理由からです。とこ

るが、今回、初めて店と母親双方の意識調査をしたところ、母親が万引対策でやってほしいことは、1位が店員による声掛け(36%)、2位が万引防止機の導入(23%)でした。防犯カメラの設置(7%)より防止機の導入の方が多かったです。これまでこうした意識調査はなかったので、店側には参考になったのではないのでしょうか。小売業界は以前からこうした機械の導入には慎重でしたが、現在はかなり意識も変化し、小売業界の代表の方も、社会全体の規範を維持していくことは「われわれの責務」と言っています。

——学校や生涯学習での取り組みとしてはどういう対策を考えていますか。

全国の中学校などに万引防止についての壁新聞を配布したり、保護者向けに分かりやすいリーフレットの配布を検討したいと考えています。

また、生涯学習のための教材ビデオとして、文部科学省も昨年から大学などが万引をテーマにしたビデオを作成する事業を支援するようになりました。

地域にいる高齢者の孤立化を防ぐためには、「何か役に立つことをやりたい」という高齢者の方に、万引に限らず、地域の青少年の健全育成につながる活動の場を提供していくのも大切ではないでしょうか。例えば、知らない人に声を掛けるだけで、空

き巢被害が激減することがあります。地域や大きなお店などでパトロールして、青少年に声を掛けるだけでも、万引被害は減少しますし、健全育成という点でも効果が期待できます。

継続的な取り組みが必要

——万引対策で重要なことは何でしょうか。

都市近郊の住宅地に大規模なショッピングセンターなどができると、その店での万引が急増し、年間500件も発生し、複数の警察署が対応するということもあります。しかし、万引対策をしつかりすることや、地域ぐるみの運動を展開することで、6分の1程度には減らせます。問題は、こうした対策や運動をどれだけ継続できるかということとです。自治体の枠を越えた国全体の支援や、継続的な活動にするための仕組みづくりも必要でしょうね。

例えば、東京地検では最近、万引や無銭飲食などで再犯を繰り返す高齢者や障害者に社会福祉の専門家を付けて、福祉施設などに橋渡しし、再犯防止と社会復帰の支援態勢づくりに取り組んでおり、再犯率の低下につながっています。その方々の活動内容をアピールしてほしいと願っています。

並行して行政、企業、ボランティア組織が、高齢者の方などに活躍していただける場を

提供していくことが大切です。

——学校やPTA団体などに期待したいことは。

よく、校長先生方と会合を持つと、決まり文句のように「私の学校では万引はありませんが」おっしゃるのですが、やはり青少年育成のためには本音ベースで情報交換することが必要ではないかと思えます。地元警察との接点がなく、実数が分からないのであればそのように言ってもらうことからスタートすべきだと思います。

万防機構には、いろんな団体から参加してもらっていますが、PTA団体など保護者の代表と、消費者団体の代表がまだいませんので、こうした分野の方にも連携・協力していただきたいと願っています。

原発の事故報告や度重なる企業不正、いじめ事件の報告書では「組織の隠蔽体質」が問題視されています。そのような体質を改善しなければ日本人が、日本の組織が、日本という国が、世界から信用されなくなると思います。そのためにも、古くからある先人の教えに学ぶことも大切ではないと思います。今では死語になってしまった「お天道様が見ている」という言葉を、現代の社会に復活させる必要があるのではと感じています。

NPO法人全国万引犯罪防止機構

<http://www.manboukikou.jp/>